

## ケネディ切手のエピソード

平 岩 道 夫 (切手評論家)

ことは天皇ご在位60年とあって、秋には記念金貨が10万円で売り出されるなど、コレクターだけでなく、関心を持つ人たちも少なくない。

ところが日本では、これまで慣習により、天皇・皇后両陛下のご肖像を描いた切手やコインは発行されないのが現実——。

ところがアメリカでは歴代の大統領は、すべて切手になっているほど——。

大統領の切手といえば、アメリカでは、1964年5月29日に、ケネディ大統領暗殺追悼記念切手を発行したが、増刷につく増刷で、なんと5億枚という空前の数になってしまった。

最初は通常の記念切手の2倍——2億5千万枚の予定で印刷されたが発行と同時にほとんどが売り切れ、ついに3台の輪転機が、1週間にわたり回りつづけたというからすごい。

たった1色刷りの切手のために、3台の輪転機が、24時間のフル運転をしたのは、アメリカでも前例がない。

この切手の図案は、彼の肖像とアーリントン墓地の“永遠の炎”に、就任のあいさつの一部を引用して、書き添えたものだ。この図案に決まるまでには、なんと3カ月を要し、最終的には、ジャクリーン夫人の了解を得て、正式に決定した——という、いわくつきの切手でもある。

切手の図案を描くための資料として、



数百枚の肖像写真が集められたが、これはというものがなく困っていたところ、委員のひとりウィリアム・シノ氏が、ベルゲン・イブニング・レコード新聞の広告頁に使われていたある家庭用映画の彼の写真を見つけた。この写真は、ロサンゼルス・タイムスのカメラマン、ウィリアム・マーフィ氏が、1958年11月13日に撮影したもの。ジャクリーン夫人が選んだのは、実はこの写真だったのである。

ところで、肖像写真とその横に添えられた“永遠の炎”の原画は、委員たちの労作だが、あとになって、これと同じような原画が、5歳の少年から、郵政当局あて送られていたことがわかり、委員たちを驚かせた。

引用の言葉“かくてこの炎よりでる光は、まことにこの世を照らすであろう”というのまで同じだったとか——。

この少年の名は、リチャード君。彼はグロースキー郵政大臣から異例の感謝状をもらったが、いちやく人気者になったことはないまでもない。

アメリカのケネディ追悼切手には、こんな裏話が秘められていたわけである。